

1 「本質的な問い」による単元構想について

- 本単元の本質的な問いに対して、昨年開催されたオリンピックを題材とし、生徒は自分事として捉え、スポーツを身近に考えることができた。スポーツと向き合う際、体力づくりだけでなく、楽しみや喜び、国際親善、人々との交流という視点で捉えることができた。

2 単元で育成を目指す資質・能力について

	はい		いいえ	
	学習前	学習後	学習前	学習後
分からないことや知りたいことがある時、誰かに尋ねたり自分で資料や情報を収集したりしている。	64%	76%	36%	24%
情報収集したことや、自分の考えを相手が理解しやすいように工夫しながら、分かりやすく伝えようとしている。	68%	79%	32%	21%
運動・スポーツを観ることは好きですか。	56%	70%	44%	30%

学習後に「保健体育授業に対するアンケート」を実施した。事前調査と比較すると上記の項目で、「はい」の回答が増加した。しかし、「いいえ」の回答が20～30%あるため、これらを肯定的な回答に変容できるよう指導の工夫をしていく必要がある。

【知識・技能】

- 前時の振り返りを生徒に提示することで学習の整理につながり、本時の振り返りを通して、分かったことや自分の考えを書かせることができた。

【生徒の振り返りより】

- ・スポーツだけでなく何事にも目的があり、それを意識することが大切だということが分かったので、これからは何を目的にしているのかを考えて行動していきたい。

【思考・判断・表現】

- 情報収集したことを整理し、考えを深めることが苦手な生徒が多い中、本時の展開のグループ協議の際、国際平和や国や地域を越えての交流などのキーワードを盛り込んでまとめることができていた。

【生徒の振り返りより】

- ・オリンピックなど色々な国が集まるタイミングで、世界平和について話し合いの場を設ければ、もっとスポーツによる影響力が増えると思った。

【主体的に学習に取り組む態度】

- 生徒が発表する際、自分が記入した内容をそのまま読んでいる生徒が多くみられた。「なぜ」「どうして」という根拠や理由を明確にし、伝えたいことを順序立てて発表できると、主体的な発言となったのではないか。発表の際に取り入れる条件をあらかじめ提示するなど、発表指導を充実させる必要がある。

3 「デジタル機器」の活用

- 前回の振り返りをタブレットで提出させたものを、導入でモニターTVの画面に映し、前時までの学習内容を分かりやすく提示できていた。また、本時の振り返りも同様に提出させることで、共有を図り、次時への意欲へとつなげる役割ができていた。
- モニターTVの画面に映している資料や個々の生徒がタブレットで記入・提出したものは手元に残らないため、思考を深める場面で参考にする場合、生徒へ配信するなど、データの扱い方の工夫をしていけるとよい。
- 国際的なスポーツ大会の動画を視聴しながら、自分が感じたことをタブレットに記入する活動の際、2つのことを同時進行で行える生徒と、視聴に集中して記入が進まない生徒がいたため、視聴と記入の時間を区切って行うなどの検討が必要である。